

2021年度の連結業績予想について

2021年7月21日

東京電力ホールディングス株式会社

【業績予想のポイント】

- **売上高**は、新会計基準の適用や、販売電力量の減少などにより、1兆3,830億円減収の4兆4,840億円程度
- **経常損益**は、販売電力量の減少や、燃料費調整制度の期ずれ影響悪化などにより、1,160億円減益の740億円程度
- **当期純損益**は、1,140億円減益の670億円程度

1. 業績予想の概要

(単位:億円)

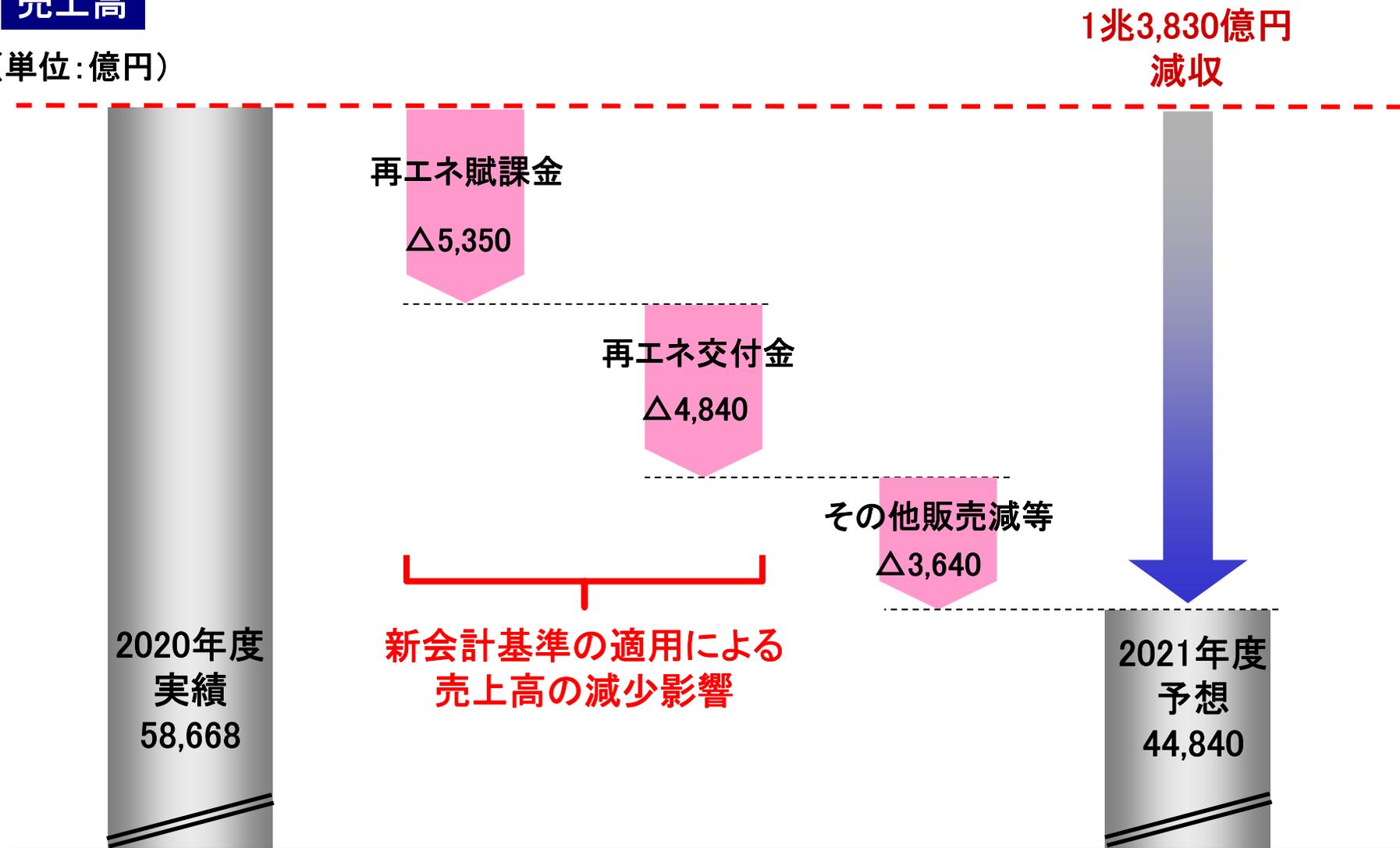
	2021年度 (予想)	2020年度 (実績)	増減
売上高	44,840	58,668	△ 13,830
営業損益	690	1,434	△ 740
経常損益	740	1,898	△ 1,160
特別損益	-	13	△ 10
親会社株主に帰属する 当期純損益	670	1,808	△ 1,140

2. 連結売上の変動要因 ～新会計基準の適用による影響～

売上高は、新会計基準の適用により1兆円超の減少（費用も減少するため、収支影響無し）

売上高

（単位：億円）

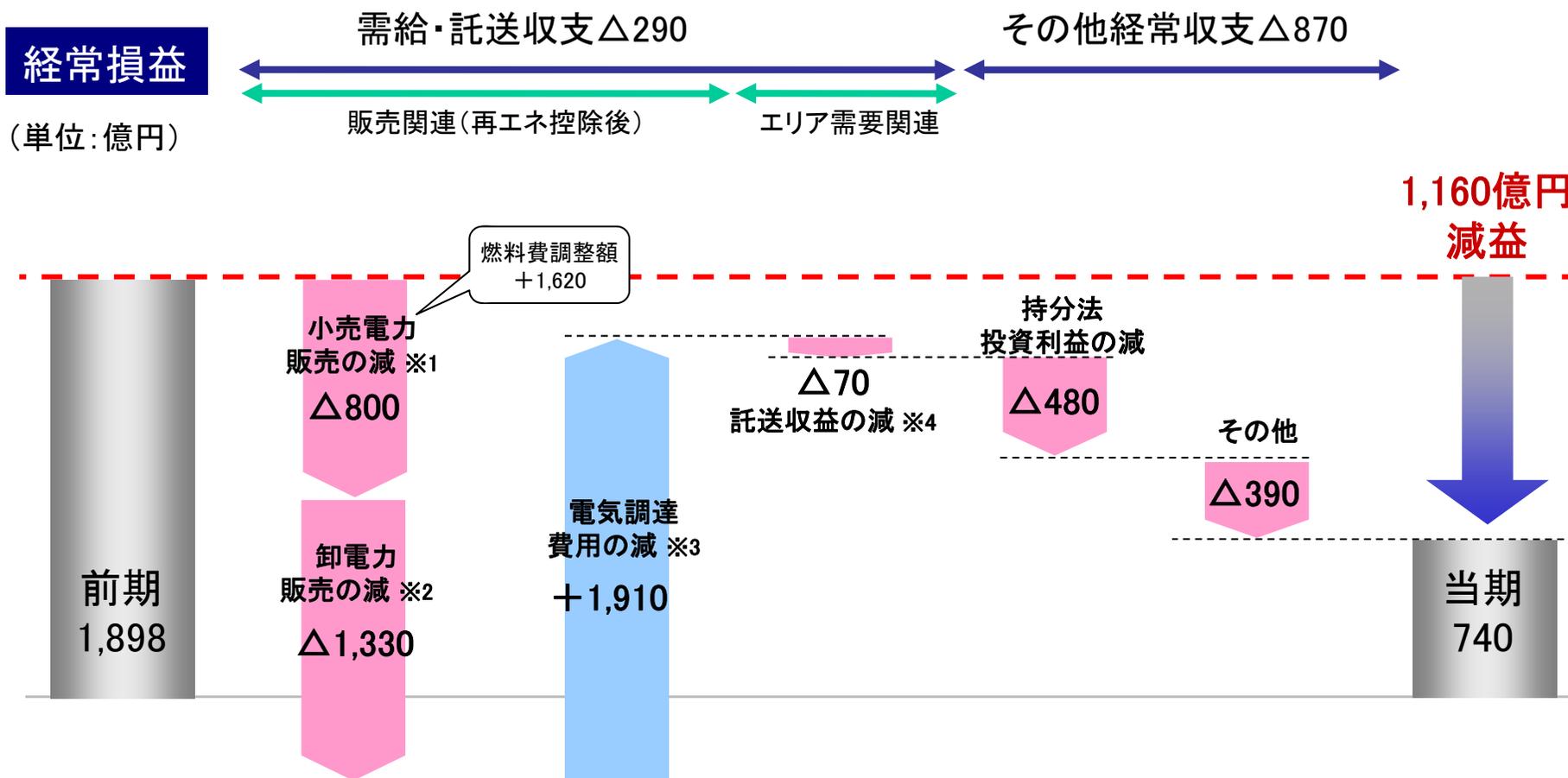


(単位: 億kWh)

	2021年度 (予想)	2020年度 (実績)	比較	
			増減	比率(%)
総販売電力量	2,130	2,315	△ 185	92.0
小売販売電力量	1,869	2,047	△ 178	91.3
卸販売電力量	261	268	△ 7	97.3
エリア需要	2,673	2,663	+ 10	100.4

	2021年度 (予想)	2020年度 (実績)	増減
為替レート(インターバンク)	110 円/ドル程度	106.1 円/ドル	+ 4 円/ドル程度
原油価格(全日本CIF)	62 ドル/バレル程度	43.4 ドル/バレル	+ 19 ドル/バレル程度

参考. 連結前年度比較



※1 小売電力販売は、託送費用の影響を含めている

※2 卸電力販売は間接オークションによる影響を除いている

※3 電気調達費用は間接オークションによる影響を除いており、不足インバランス増加による収益増は電源調達費用増と相殺している

※4 託送収益はグループ内取引を含み、不足インバランスの影響を除いている

参考. セグメント別の概要

(単位:億円)

	2021年度 (業績予想)	2020年度 (実績)	増減
売 上 高	44,840	58,668	△ 13,830
ホールディングス	6,350	6,242	+ 110
フュエル & パワー	50	87	△ 40
パワーグリッド	17,600	20,038	△ 2,440
エネルギーパートナー	36,850	50,343	△ 13,490
リニューアブルパワー	1,540	1,434	+ 110
調 整 額	△ 17,550	△ 19,479	+ 1,930
経 常 損 益	740	1,898	△ 1,160
ホールディングス	750	△ 79	+ 830
フュエル & パワー	240	698	△ 460
パワーグリッド	1,080	1,690	△ 610
エネルギーパートナー	80	64	+ 20
リニューアブルパワー	400	481	△ 80
調 整 額	△ 1,810	△ 956	△ 850

参考. 新会計基準の適用

- 2021年度より、『収益認識に関する会計基準』が適用され、従前は収益(売上)として計上していた取引の一部で、計上科目の変更が発生(費用も変更となり、収支影響無し)
- 賦課金と納付金は、GIOのための回収であることから、回収金(負債)の増減として計上
- 交付金は、同基準に則した電気事業会計規則の改正により、費用のマイナスとして計上

<再生可能エネルギーの固定価格買取制度イメージ> 青字:2020年度までの計上 赤字:2021年度からの計上

